

コレクション展 歿後20年 若林奮

WAKABAYASHI Isamu: 20 years after his death

2023年10月21日[土] - 12月24日[日]

豊田市美術館

開館時間: 午前10時 - 午後5時30分 [入場は午後5時まで]

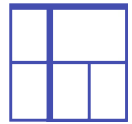
休館日: 月曜日

主催: 豊田市美術館

観覧料: 一般300円[250円]/高校・大学生200円[150円]/中学生以下無料

[]内は20名以上の団体料金

観覧料の減免対象者及び割引等については、当館ウェブサイトをご確認ください。



Toyota
Municipal
Museum
of Art

豊田市美術館

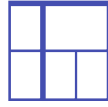
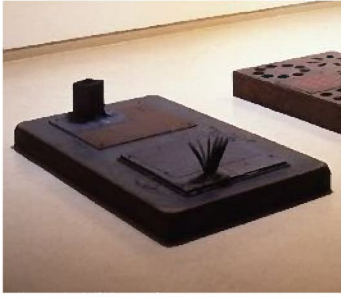


《立体ノート—気体・固体・液体・現在 VII》1974年



《樹皮と空地—桐の樹》2002年

コレクション展 歿後20年 若林奮
WAKABAYASHI Isamu: 20 years after his death



Toyota
Municipal
Museum
of Art
豊田市美術館

《所有・雰囲気・振動—草の侵略及び持物について I》1984年

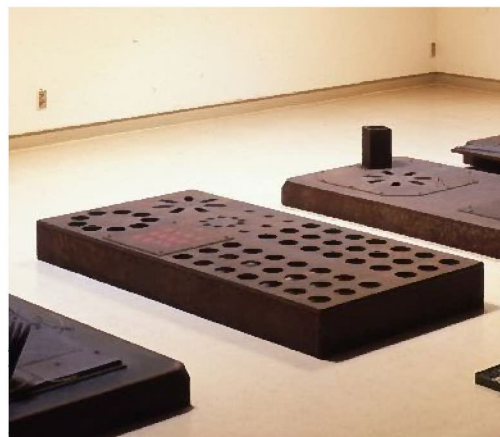


《100の羨望 XC》1971年

自然に対する独自の視点と精緻な観察に基づく作品で、戦後日本美術に大きな足跡を残した彫刻家・若林奮[わかばやし いさむ/1936-2003]。1959年、東京藝術大学彫刻科を卒業後、1973年の神奈川県立近代美術館を始め、美術館で個展を重ねるとともに、武蔵野美術大学や多摩美術大学で教鞭をとるなど後進の指導にも力を注ぎましたが、2003年、67歳の若さで惜しまれながら世を去りました。若林のつくり出す作品は、寡黙で多くを語ることはありません。装飾的なものを削ぎ落した禁欲的な形態、鉄や硫黄などの素材による緊張感に満ちた表面、そこには、深い思索から生まれる繊細な詩情と深遠な思想が漂っています。それは、彫刻とはどのように在りうるのかという根源的な問いから発するものであり、また、自然やそこにある事物を自己という唯一の存在を尺度として認識しようとする、作家自身の具体的で私的な探究の所産と言えるでしょう。豊田市美術館では、若林の仕事を全体的に見渡せるよう作品の収集に努め、他界する前年の2002年には、大規模な回顧展も開催しています。今年は、若林の歿後20年の節目にあたります。この機に、所蔵する彫刻約20点、素描・版画約100点をまとめて展示し、改めてその作品に向き合い、この稀有な作家の思想に触れます。



《振動尺試作 I》1976-77年



《所有・雰囲気・振動—草の侵略及び持物について II》1981-83年

©WAKABAYASHI STUDIO

Designed by Kijuro Yahagi

会期中、素描作品の展示替えを行います。

前期:11月19日[日]まで

後期:11月21日[火]から

同時開催

帝国ホテル二代目本館100周年

フランク・ロイド・ライト 世界を結ぶ建築

2023年10月21日[土]-12月24日[日]

次回開催

未来の驚異の部屋

2024年1月20日[土]- 5月6日[月・祝]

問合せ先

豊田市美術館

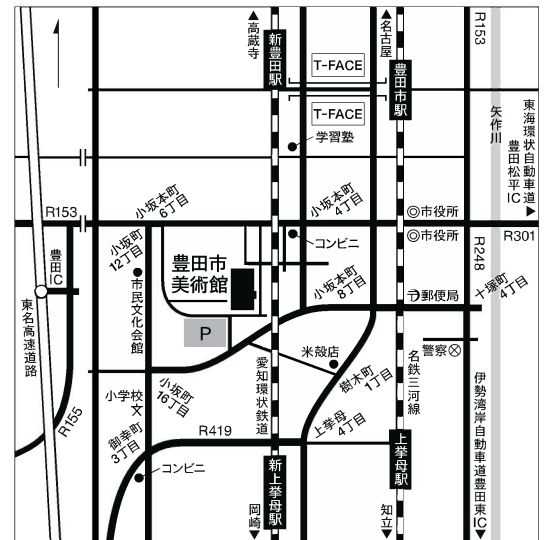
〒471-0034

愛知県豊田市小坂本町8丁目5番地1

Tel.0565-34-6610 Fax.0565-36-5103

Email. bijutsukan@city.toyota.aichi.jp

<https://www.museum.toyota.aichi.jp>



[名鉄三河線豊田駅・愛知環状鉄道新豊田駅より] 徒歩15分
[名鉄三河線上学母駅・愛知環状鉄道新上学母駅より] 徒歩20分
[お車ご利用の場合] 東名高速道路豊田ICより約15分
東海環状自動車道豊田松平ICより約15分
伊勢湾岸自動車道豊田東ICより約20分